

わたし ちいき
私たちの地域には水害を防ぐ施設がいくつもあります



樋門(ひもん)・樋管(ひかん)

樋門・樋管とは、川や水路を流れる水が大きな川に合流する場合、合流する川の水位が洪水などで高くなった時に、その水が逆流しないようにする施設です。



ちゅうせつようすい ながらがわ ごうりゅうちてん ぎゃくすいひもん
忠節用水と長良川との合流地点にある逆水樋門

堤防(ていぼう)

堤防とは川を流れる水が安全に下流まで流れるように、川の左右に造られた施設です。川にどれくらいの水が流れるかを予想して堤防の高さを決めていきます



水害を防ぐ施設【河川防災ステーション】

河川防災ステーション

河川防災ステーションとは水害を防ぐための活動に必要な資材(ブロックなど)を備蓄しておくための施設です。普段は地域のレクリエーションなどにも利用されています。



ブロック



ながらがわ
長良川にある河川防災ステーション

ぎふしながらがわほうさい けんこう
『岐阜市長良川防災・健康ステーション』



かいぎしつ
会議室



しれいしつ
指令室



健康ステーション

すいがい ふせ しせつ 水害を防ぐ施設【排水機場(はいすいきじょう)】

排水機場(はいすいきじょう)

排水機場とは^{あめ}雨が^ふたくさん^ふ降って^{かわ}川の^{みず}水が^ふ増えると、^{しぜん}自然に^{みず}水が^{なが}流れなくなってしまう水をポンプを^{つか}使って^ぬ抜く施設です。





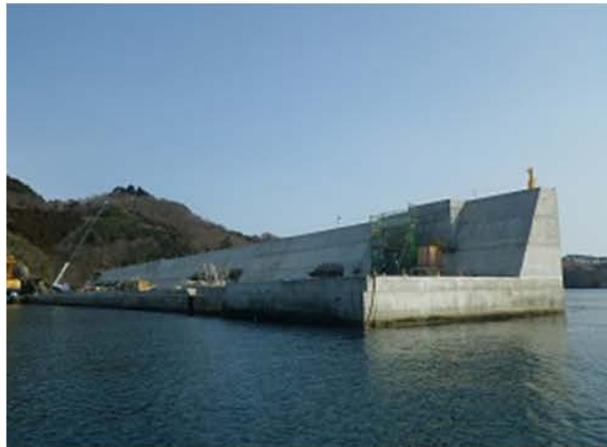
しゅとけんがいかくほうすいろ しやしん ばしょ さいたまけんかすかべ
 首都圏外郭放水路 (写真の場所：埼玉県春日部市)
 どうろのした やく 50m ぬかさにある ちか 地下の水路です。たいふう おおあめ
 道路の下、約50mの深さにある地下の水路です。台風や大雨で
 しゅうへん かわ まえ すいろ なが すいがい ふせ
 周辺の川があふれる前に地下の水路に流し、水害を防ぎます。



さほうえんてい しずおかけんふじのみや
 砂防堰堤 (写真の場所：静岡県富士宮市)
 たいふうがふったときに、やまからながれてくるおほいわたしやき
 大雨が降ったときに、山から流れてくる大きな岩、土砂、木な
 どをせき止めて、山のふもとのまちまもを守ります。



かせんていほう きふけん きふし ながらかわ
 河川堤防 (写真の場所：岐阜県岐阜市 長良川)
 たいふうやたいふうで川のながが増えたとき、川のなががあふれて、しゅうへん
 まち しんすい
 台風や大雨で川の水が増えたとき、川の水があふれて、周辺の
 町が浸水するのを防ぎます。



ほうはうてい いわて おおふなと おおふなところ
 防波堤 (写真の場所：岩手県大船渡市 大船渡港)
 たいふうのときのおおなみじしん つなみ およ
 台風の時の大きな波や地震による津波が押し寄せたときに、まち
 が浸水するのを防ぎます。

水害を防ぐために普段から取り組んでいることがあります



河川パトロール

かわ みず あんぜん なが
川の水が「安全に流れているか」「堤防などに異常がないか」などを確認するために、河川パトロールカー
おこな
で川のパトロールを行っています。



異常がないか確認



河川パトロールカー

すいがい ふせ とり く すいぼうえんしゅう
水害を防ぐための取り組み【水防演習①】

すいぼうえんしゅう
水防演習

かわ こうすい はっせい とき そうてい みず ど つ
 川で洪水が発生しそうな時を想定して、川の水があふれないように土のうを積んだり、

こうぼう おこ くんれん
 水防工法を行うなどの訓練をします。



すいぼうだん
 水防団による水防工法訓練



水防団による水防工法訓練



監視カメラ



川の監視カメラ

川の近くにカメラを設置し、川の様子を常に監視しています。川や堤防に異常があった時には、災害に繋がらないようにすぐに対応します。

川の水位の監視
 川の水位を計測し、常に監視しています。大雨や台風で洪水が起こりそうなときは、県や市などの関係者に水位の情報を伝えます。



南海トラフ防災訓練

日本の広い範囲で大きな被害が予想されている南海トラフ巨大地震に備えて、県、市町村、警察、自衛隊などさまざまな関係者と連携して防災訓練を行っています。



土砂災害防災訓練

大雨による大きな土砂災害に備えて、県や市町村、警察、消防などさまざまな関係者と連携して防災訓練を行っています。